

# ジオ検定2013 3級 正解と解説

問題 No.	正解	解 説
Q1	D	ジオパーク (geopark)の「ジオ」はギリシア語で「地球・大地」などの意味を表す。ジオパークを直訳すると「大地の公園」。地球活動の遺産を主な見どころとする自然の中の公園といえる。ちなみにスタジオ (英: studio) とは、本来は、芸術家の仕事場 (アトリエ・工房) などのこと。ラテン語の studium (勤勉) が語源。
Q2	A	三保の松原は富士山世界文化遺産の構成資産。後の3つは伊豆半島ジオパークの近隣にあるジオパーク。興味のある方はぜひ、近くのジオパークを訪問しよう。
Q3	D	世界ジオパークネットワークは、世界遺産とは異なり多国間の条約に基づくユネスコ (UNESCO) のプログラムではないが、ユネスコの支援のもとで活動している。
Q4	A	ジオパークの活動は、地球活動によって生じた地域資源を主な対象として、地域資源を「学び (教育活動)」・「守り (保全活動)」ながら、地域の持続的発展 (地域振興) を目指すもの。たくさんの景勝地や温泉、湧水など、伊豆にある資源とその成り立ちを知って、それらを保全しつつ継続的に地域の価値を高めていくことがジオパークの活動といえる。近年は地震や火山噴火といった災害に対する理解向上にもジオパークの仕組みを活用しようという動きが生まれてきている。
Q5	A	2013年6月現在の日本ジオパークネットワークへの加盟数は25地域。このうち世界ジオパークは洞爺湖有珠山、糸魚川、山陰海岸、室戸、島原半島の5つ。
Q6	A	「南から来た火山の贈りもの」が伊豆半島ジオパークの主題。南洋から移動してきた火山島にルーツを持つ伊豆半島とその自然の恵みに焦点をあてたテーマ設定をしている。ちなみに川端康成は伊豆序説で「火山の上に火山が重なって出来た」といった表現を用いている。
Q7	A	「伊豆は詩の国であると、世の人はいう。伊豆は日本歴史の縮図であると或る歴史家はいう。伊豆は南国の模型であると、そこで私はつけ加えていう。伊豆は海山のあらゆる風景の画廊であるとまたいうことも出来る。伊豆半島全体が一つの大きい公園である。」(伊豆序説 (川端康成) 日本地理体系第6巻)
Q8	D	鍋で水を沸かすと熱せられた熱い湯は上に行き冷たい水は下にいく、これが対流だが、地球の内部でも中心に行くほど高温っており、マントルという流体の部分で対流が発生する。この流れに表層部のプレートが引っ張られて移動する。
Q9	B	人の爪が伸びる速度と同じ程度の年4センチが正解。GPSなどの電波計測で2点間の距離を測ることで知ることができる。
Q10	C	伊豆半島の歴史は約2000万年前までさかのぼることができる。南洋の海底火山群がフィリピン海プレートとともに北上し約100万年前に本州と衝突。約60万年前には半島の形になった。
Q11	B	伊豆半島南部にはかつての海底火山の噴出物が多く分布している。西伊豆町の堂ヶ島や下田市の恵比須島では火山から噴出した軽石や火山灰が海底に降り積もった白い縞々の美しい地層を見ることができる。
Q12	A	伊豆半島の火山は海底火山の時代と衝突後の陸上大型火山の時代、伊豆東部火山群

		の時代の3つに大別できる。達磨山（沼津市）は80万年前から50万年前ころに噴火を繰り返していた陸上大型火山の時代の火山だが、香貫山（沼津市）、葛城山（伊豆の国市）、寝姿山（下田市）はいずれも海底火山時代のマグマの通り道が侵食によってあらわになったものである。
Q13	D	前問の達磨山や富士山、箱根山など、ほぼ同じ場所から休止期間をはさみつつ噴火を繰り返す火山を複成火山という。一方、単成火山は、1回の噴火だけで作られる比較的小さな火山で、同じ場所で何回も噴火することはない。富士山のような大きな複成火山のまわりにたくさんの単成火山が分布していることも多い。一方で、富士山のように大きな火山体を持たず、単成火山のみで構成される火山を「独立単成火山群」と呼ぶ。伊豆東部火山群は阿武（山口県）、福江（長崎県）と並び、国内では3例しかない独立単成火山群のひとつ。
Q14	C	岩石やスコリア、火山灰などのなかに含まれる鉄分は、空気中で高温にさらされると酸化して赤い色を帯びる。酸素のある陸上で、かつ高温にさらされる火口の近くに降りつもったスコリアなどが赤い色を帯びていることが多い。
Q15	C	2003（平成15）年に火山噴火予知連絡会は「概ね1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山」を活火山と定義し直した。当初、活火山の数は108だったが、2011（平成23）年に2火山が追加され、活火山の数は現在110。
Q16	C	伊豆半島最古の地層「仁科層群」は、西伊豆町の仁科川の中流から下流の谷沿いに分布。西伊豆町一色の林道沿いの崖に見られる枕状溶岩は約2000万年前のものである。
Q17	C	柱状節理とは、柱のような形をした規則正しい割れ目のことである。マグマが冷え固まる際に均一に収縮して柱状節理ができる。下白岩で見られるのは、石灰質砂岩である。この地層は、県指定天然記念物の有孔虫化石を多数含んでいる。
Q18	C	室岩洞は、江戸時代から戦後まで続いた石丁場跡である。火山灰や軽石の地層は加工しやすい「伊豆石」として使用された。当時の石切り技術が見られる貴重な場所である。
Q19	A	堂ヶ島の崖には、海底火山の噴火にともなう水底土石流と、その上に降り積もった軽石・火山灰層が見られる。この崖には、波がうがった洞窟である国指定天然記念物「天窓洞」もある。
Q20	D	伊豆東部火山群は、約15万年前から伊豆半島の東部と、その沖合の相模湾の海底で噴火活動を開始した活火山。国内では珍しい独立単成火山群で、カワゴ平や鉢ノ山、一碧湖はこの火山群の火口のひとつ。金冠山は80万年前から50万年前ころに噴火していた達磨山の一部。
Q21	C	南伊豆町ジオパークビジターセンターのすぐそばに見えるなだらかな丘は、約40万年前に噴火した南崎火山がつくり出した。この丘にはユウスゲ公園として遊歩道が整備され、7月から8月中旬の夕方にはたくさんのユウスゲが美しい姿を見せる。
Q22	B	三筋山から南東に広がる緩やかな斜面は細野高原と呼ばれ、かつての大型陸上火山である天城山の南東斜面が侵食され残ったものである。秋には相模湾に浮かぶ伊豆七島を遠景にして一面に広がるススキ野原を見ることができる。

Q23	B	十国峠は、80～30 万年前に噴火した湯河原火山の一部である。この峠から見渡すことができるのは、常陸・武蔵・下総・上総・安房・相模・甲斐・伊豆・駿河・遠江の 10 国である。峠の展望台まではケーブルカーで登ることができ、伊豆半島や箱根、富士山も一望できる。
Q24	B	伊豆半島でもっとも標高が高いのは万三郎岳の 1,406m。次いで万二郎岳 (1,299m)、遠笠山 (1,197m)、達磨山 (982m)。
Q25	D	富士山周辺の浅間神社に祀られているコノハナサクヤヒメの姉にあたるイワナガヒメは雲見浅間神社と大室山浅間神社に祀られている。姉妹を祀る浅間神社は全国に多数あるが、イワナガヒメのみを祀る神社は少ない。
Q26	C	沼津港にそそぐ狩野川水系は、伊豆を南から北に流れる狩野川のほか、御殿場方面から流れてくる黄瀬川等も流域に含む。その流域面積は約 850 平方キロであり、これは静岡県面積の約 11%を占める。北流する狩野川は、伊豆半島が本州に衝突したことを物語っている。鮎釣りのメッカとしても有名である。
Q27	A	1989 年の伊東沖の手石海丘火山が最も新しい噴火活動である。伊豆東部火山群では現在でもマグマが活動を続け、時おり伊豆東方沖で群発地震を起こしている。
Q28	D	河津七滝のうち 6 つの滝では柱状節理をよく観察することができるが、古い地層で出来たエビ滝では観察できない。
Q29	B	砂嘴（さし）とは海流によって運ばれた岩や砂などでできた嘴（くちばし）形の地形。京都の天橋立や、静岡の三保の松原なども砂嘴。
Q30	B	県指定天然記念物にも指定されているシラヌタの池は、天城山の山腹で起きた地すべりによって谷がせきとめられてできたせきとめ湖である。モリアオガエルなど貴重な生物が生息している。
Q31	D	縄状溶岩とは、表面が太い縄をたばねたような形で固まっている溶岩。粘性が小さく流動性に富む玄武岩質マグマが固まるときよくできる。
Q32	A	猫越火山と棚場火山の 2 つの陸上大型火山が造った地形は西天城高原と呼ばれ、そのなだらかな山の斜面は牧場として利用されている。
Q33	B	1498 年明応東海地震の津波によって被災した集落が神社より高い場所に移転したため、集落から道を下って参拝する珍しい「下り宮」となったとされている。
Q34	C	70 万～30 万年前に活動した多賀火山の東側が浸食されて残ったのが玄岳である。伊豆スカイラインは、熱海峠から天城高原まで伊豆半島の尾根を縦走する延長 40.6m の観光道路である。道路からは、駿河湾や富士山を眺めることができる。
Q35	C	下田富士の標高は 191m。下田富士と富士山、八丈富士は三姉妹という民話がある。長女・下田富士は、自分の容姿を悲しみ、天城山という屏風を立て美しい次女・富士山と顔を合わせなくなってしまったと言われている。
Q36	B	深海に生息するのは、タカアシガニのみである。駿河湾はフィリピン海プレートの沈み込みにより生み出された日本一深い湾であり、湾の最深部は 2,500m に達する。
Q37	C	天窓洞、擦痕、楽寿園はいずれも国指定の天然記念物である。一方、太郎杉は県指定の天然記念物である。

Q38	D	ワシントン記念塔には、1854年（嘉永7年）にペリー艦隊が持ち帰った下田の伊豆石が使われている。記念塔の西側、下から65mの位置にあり、「嘉永甲寅のとし五月伊豆の国下田より出す」と刻まれ今でも見ることができる。
Q39	B	カルストのみ見ることができない。魚見崎の断崖には、多賀火山の噴火初期の噴出物を見ることができ、絶壁のつけ根には、波の浸食により作られた波食洞や波食窪が見られる。また、波の浸食と隆起によって作られた波食台の一部は、ホテルの建物や波打ち際の露天風呂などの基礎として利用されている。
Q40	A	吉田松陰は蓮台寺温泉にある旧・村山行馬郎邸に身を寄せていた。現在は、県指定史跡・吉田松陰寓寄処として公開されている。皮膚病の湯治の為に蓮台寺を訪れたとされる。
Q41	D	ユネスコスクールはユネスコの理想を実現し、平和や国際的な連携を学校での実践を通じて促進することを目的に設けられた。ユネスコは世界ジオパークを支援している国際機関である。（Q3参照）
Q42	C	県道223号（ふじさん）は全国で唯一、観光に特化した海上の県道である。正式名称は「県道223号清水港土肥線」。
Q43	B	ぼら納屋は寛永3年（1627年）に紀伊家が建築したとされ、見張りのホラ貝の音や旗を合図に漁師たちが勇壮に出漁した。伊東市富戸でとれた「ぼら」は、江戸城にも運ばれ徳川三代将軍家光の食膳を賑わしたとも伝えられている。
Q44	C	滑沢溪谷は狩野川の支流にあたる深い樹林に包まれた溪谷。伊豆東部火山群のひとつ、滑沢火山の噴火が谷を埋立て美しい溪谷を作りだした。溪谷沿いの遊歩道に井上靖の文学碑が立っている。
Q45	C	願成就院は高野山真言宗の寺院であり、境内は国の史跡に指定されている。制作年は文治2年（1186年）、施主は北条時政とされる。源頼朝の奥州討伐を祈願して建立されたと言われている。
Q46	A	伊豆最古の仏像とは薬師如来坐像である。河津町谷津にある「伊豆ならんだの里河津平安仏像展示館」で見ることができる。
Q47	C	江戸城築城石ふるさと広場は、2012年9月伊豆稲取駅前にオープンした。広場には約3.4トンの大石を網で引く石引体験コーナーがある。
Q48	A	黄金崎の崖の地層は海底火山の噴出物であるが、後の温泉水や地熱の作用によって変質・変色したものである。この崖は県の天然記念物に指定されている。三島由紀夫は安良里の旅館に、約半月滞在し小説「獣の戯れ」を執筆した。
Q49	D	伊東市内のスキューバダイビングショップのインストラクター達が海中や海辺から伊豆半島ジオパークを盛り上げようと立ち上げたのが、伊東ジオマリンクラブである。現在30名のジオマリンガイドがいる。
Q50	D	三島市は古くより富士山の湧水の湧く「水の都」と呼ばれていた。太宰治は三島をたびたび訪れ、市内の様子を著書「老ハイデルベルヒ」や「ロマネスク」に描いている。楽寿園内小浜池を水源とする源兵衛川は湧水を農業や生活に使うために人の手で作られた用水路である。